

公益財団法人 おかやま環境ネットワーク

～2018年度事業・決算報告 2019年度事業計画・予算～



海洋教育シンポジウム

～ 目次 contents ～

2018年度事業報告	P. 1～11
2018年度財務諸表等・監査報告書	P.12～16
2019年度の事業計画・収支予算書	P.17～18
定款	P.19～22

平素より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

本誌を通じておかやま環境ネットワークについて一層のご理解を賜り、身近に感じていただければ幸いです。

今後も変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

※活動は皆様のご支援に支えられています。ご入会・ご寄附等のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



公益財団法人 **おかやま環境ネットワーク**

Okayama Environment Network Foundation

～かけがえのない地球、未来のこどもたちへ～

2018年度の事業報告

(2018年04月01日～2019年03月31日)

1. はじめに

- ①他団体等との協働は、昨年同様、多くの事業ですすすめられました。
- ②企業との連携は、(株)村田製作所のビオトープを活用したホテル観察（初夏）、紅葉シーズン、桜の開花シーズンと季節を変えた事業へと拡がりました。
- ③改選期を迎えた理事の選任と代表理事の選定を行いました。

2. 公益事業1

(1) 助成事業



2018年度助成活動報告会



助成による取り組みの様子

①助成活動報告会

- 1) 2017年度の助成8団体による報告会を開催しました。

	助成団体名	助成企画名
1	特定非営利法人里海づくり研究会議	沿岸海域における物質循環促進技術の開発
2	NPO法人共存の森ネットワーク	アマモ場再生で形成される日生の食文化の伝承
3	岡山理科大学附属高等学校科学部	旭川流域河川の底生動物を利用した水環境調査
4	あかいわ美土里の和	里山再生プロジェクト
5	千年の森づくりグループ	豊かな美咲町自然・環境、人づくり!
6	おかやまコープ美術エリア	バイオマス産業杜市「真庭」に学ぶ環境保全活動
7	つやま演劇教育研究会	演劇を介したクールチョイスの周知・促進
8	あかいわエコメッセ	第19回あかいわエコメッセ (環境企画展)

- 2) 各団体の報告後、質疑応答で積極的な情報交換が行われました。また、参加者から、県下の環境を守る団体の活動を知ることができ、参考になった等の声をいただきました。

②助成部会

- 1) 2019年度の助成申請の審査、助成募集要項及び助成活動報告の開催について協議しました。
- 2) 2018年度は、5団体に54万円の助成を行いました。

年度	団体数	金額	年度	団体数	金額	年度	団体数	金額
1999	5	65	2006	15	129	2013	8	102
2000	7	100	2007	12	120	2014	10	126
2001	13	110	2008	15	150	2015	11	175
2002	13	137	2009	11	94	2016	9	95
2003	16	150	2010	10	93	2017	8	100
2004	11	102	2011	12	100	2018	5	54
2005	15	147	2012	6	90	合計	212	2,239

- 3) 助成団体が企画する行事等に事務局が参加し、助成金の使用状況等を含め情報収集を図りました。

日程	企画名称など	
6/17 (日)	エコマインド主催「0円キッチン&エコマインドマルシェ」	対象事業
6/24 (日)	美土里の和主催「わくわく自然体験しませんか・ホテル観察」	対象事業
9/16 (日)	エコマインド主催「地域を活かす農業と食の安全」	対象事業

(2) ホテル保護事業

①ホテル団体交流会

- 1) 年3回(9月・11月・2月、7月は大雨のため中止)開催しました。各団体組織の高齢化による活動の衰退や停止が発生してきている中、活動団体の訪問(美咲町・大山川)や事例報告(岡山市・奥迫川)を行い、持続可能な活動の検討をすすめました。また、2019年度のホテル観察会の会場についても検討を行いました。ホテルフォーラムは、年度当初の計画通り、実施を見送りました。

②ホテル観察会

- 1) 3会場((株)岡山村田製作所ビオトープ、児島由加山、御津大野川)でのホテル観察会を開催しました。ビオトープでの観察会では口コミによる拡がりもあり想定を超える300名の参加がありましたが、受け入れ態勢に課題を残しました。2019年度の観察会では、前年7月の大雨による河川増水などの影響などを合わせて確認していきます。



ホテル観察 由加・蛍遊の水辺

(3) 支援環境の研究・交流

①里海づくり推進部会

- 1) 有識者、事業者、団体、企業、行政等、多様なメンバー参加のもと、里海生誕20周年記念シンポジウム(主催)、海洋教育シンポジウム(共催)や体験プログラムの企画検討、参加メンバーの取り組み交流等をすすめました(年6回)。

②アマモ場再生活動支援

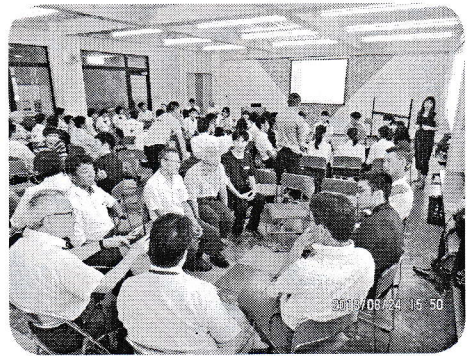
- 1) 日生において、日生漁業協同組合を中心に、学校や市民を巻き込んだアマモ再生活動の理解を深める説明、アマモの種取り、種選別、種まき、播種ポット作成などの取り組みを検討・実施しました。
- 2) 笠岡見崎において、神島寺間見崎里浜づくりの会を中心に、アマモの種取り、種選別、播種ポット作成、ポット植付などの取り組みを、生活協同組合おかやまコープ井笠エリアの組合員とともに実施しました。2019年度は、再生活動の中心を担う地元リーダーが不在となるため、現地の意向を踏まえ共同での企画開催を取りやめることとなりました。再生活動の再開に向け、地元との調整をすすめます。

③シンポジウム

- 1) 『里海』が提唱されて20年となることを記念し、里海づくりに国内及び海外で奔走される様々な立場の人々が、世代や地域・立場を越えて一堂に会し「世界に発信する日本の“Satoumi”」について基調講演、国内各地からの報告、パネルディスカッションを通して考える場として、NPO法人里海づくり研究会議とともに主催、環境省及び生活協同組合おかやまコープの共催を得ながら『里海』生誕20周年記念シンポジウム～“里海Satoumi”生誕20周年の歩み～を開催しました。
- 2) 『里海』生誕20周年記念シンポジウム」の前日、全国各地から参集された専門家の方々と地元の中学生・高校生・大学生や漁師のみなさんが、「30年後の世界の海は？」をテーマに、国内外の里海をめぐる社会や経済や政策などの基調講演を受け、グループ・ディ

スカッションを通し、未来の海の危機と可能性を一緒に考えるプレ企画を開催しました。

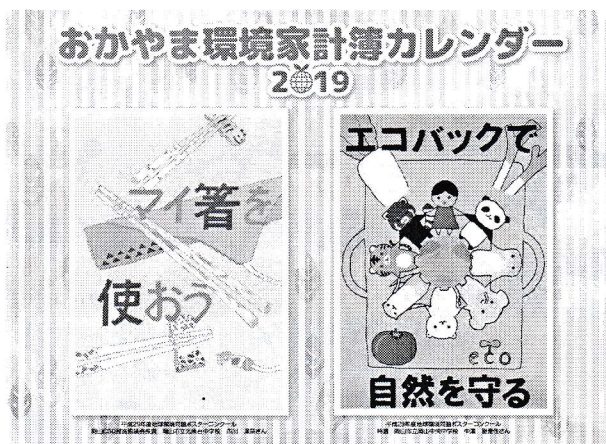
- 3) 日生町漁協で取り組まれていたアマモ再生活動も、つい最近まで地元の日生町の人々でもほとんど知ることがなかった中、日生中学校への再生活動への協力要請をキッカケに、アマモの大切さや海の危機や里海の重要性が保護者や地域住民に広く知られるようになった様子を日生西小学校、日生中学校、岡山学芸館高校の発表とそれをサポートしてきた専門家の基調講演、パネルディスカッションを通して学ぶ、「海洋教育シンポジウム・子どもたちが拓く〈地方再生〉の未来～海洋教育の可能性を考える～」を開催しました。



プレシンポジウム・グループディスカッション

(4) 広報、事業決算報告、ニュース発行

- ① ネットワークニュースを発行（年4回）し、会員及び関係団体等への情報提供を図りました。
- ② メールニュースの発行（月2回）とホームページの更新で、情報報告をすすめました。メール登録者数は1,298名となり、関係団体による発信要望を含め、行事案内をすすめました。
- ③ 活動紹介パンフレットや事業・決算報告書を様々な機会に配布し、活動紹介とともに新規会員の獲得を図り、8会員（個人・団体・企業）の入会がありました。
- ④ 新たな参加者層の獲得に向けた広報媒体の活用方法の検討には着手できませんでした。



2019環境カレンダー



NWニュースNO. 93表紙

(5) 環境家計簿活動事業

- ① 環境家計簿登録モニター
 - 1) 2018年のモニター数は、258世帯（前年265世帯）となりました。2016年と2017年の連続2年間分の全データが揃った160世帯の実績集計では、2016年比では1世帯当たりのCO₂排出量は100.3%と微増となりましたが、2013年比では76.3%と大きく減らすことが出来ています。
- ② 環境家計簿レポート、環境家計簿カレンダー
 - 1) モニター実績をまとめ、岡山市と協働で環境家計簿レポート（6月）を発行しました。
 - 2) 各家庭でのエネルギー使用の抑制、外出先でのゴミ捨て方やエコ消費の視点など、

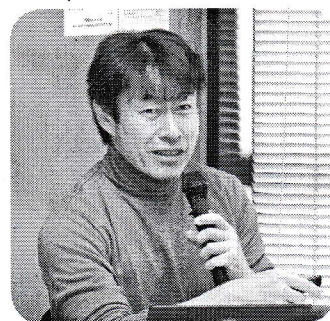
環境にやさしいくらしの実現に役立つ情報を分かり易く提供するツールとして、岡山市と協働で環境家計簿カレンダー（11月）を発行しました。

- 3) 環境家計簿委員会では、環境家計簿レポート、環境家計簿カレンダーの原稿作成をすすめました。また、岡山E S D推進協議会の要請を受け、岡山E S Dアワードグローバル賞受賞団体（マレーシア：イスカンダル小学校での環境家計簿活動）に環境家計簿の取り組みを紹介しました。

(6) 協働事業：他団体や行政などとの関係

①水環境フォーラム

- 1) (社) 日本水環境学会中国四国支部岡山地域分科会、岡山理科大学環境教育地域支援研究会と共催で、水環境フォーラムを11月に開催しました（7月は大雨により中止）。「金属を含む排水の処理と課題・そして再利用」をテーマに、石川彰彦氏（岡山大学大学院教育学研究科教授）「柵原休止鉱山における坑排水処理副産物の利用」、竹内文章氏（岡山大学環境管理センター教授）「高活性鉄酸化細菌を用いた重金属浄化及び資源回収システムの開発」の講演を受け、総合討論を通じて意見交換をすすめました。



「水環境フォーラム」石川彰彦氏

②日生西小学校「アマモ播種ポット作成教室」

- 1) 地域と世代をつなぐ里海づくりの一環として、備前市立日生西小学校にて、日生中学校の生徒と日生西小学校の児童（計65名）を対象に、田中丈裕氏（NPO法人里海づくり研究会議理事）によるアマモの役割の説明の後、アマモの種で播種ポットを作成しました。生徒と児童はポットを持ち帰り発芽の成長過程を観察した後、1月25日に潜水作業により定植されました。

③行政等との関係

- 1) 「岡山県協働による環境学習推進事業」の運営会議、「岡山E S D推進協議会の運営委員会及び企業部会」、「備前市里海・里山ブランド推進協議会with I C M」の専門委員会及び環境戦略部会に委員参加し、役割を發揮しました。

組織名	委員会等	開催
アスエコ	運営委員	4/9、5/22、7/23、8/20、12/8、3/2（全体会）、3/19
E S D協議会	運営委員会	5/21、10/24（合同研修）、11/9、11/22・12/6・1・7（研修）、3/19
	企業部会	7/12、10/12（企業見学）
備前市	専門部会	4/26、8/31、9/18（締結式）、3/25
	観光戦略部会	4/23、5/10、5/27（頭島マルシェ）、6/8、7/24、8/31、9/28、3/15
旭川かいぼり	実行委員会	6/13、8/1、9/19、10/10

- 2) 岡山市との協働による「環境家計簿レポート」「環境家計簿カレンダー」を発行しました。岡山市以外の市町との協働発行について実現の可能性を探ります。
- 3) 「市民のための環境講座」「里海生誕シンポジウム」等では、大野川いい川づくり、神島寺間見崎里浜づくり、NPO法人里海づくり研究会議、ママカリ普及委員会、生活協同組合おかやまコープ岡山東・岡山西・倉敷・備北・井笠エリア等と共催による事業をすすめました。

(7) コープフェスタ

①ネットワークでのブース展示

- 1) 「プラスチックゴミのゆくえ」と題して、海に流れ出たプラスチックが海洋生物による誤食など被害を与えている様子のパネルや、備前市とIVUSA（国際大学ボランティア協会）が共同で作成した回収した海ごみを瓶詰にしたオブジェを展示し、SDGsのターゲット

ト14でも取り上げられている「海の豊かさを守る」ことの必要性を来場者にお知らせしました。

3. 公益事業2

(1) 市民のための環境講座

①企画状況

1) 環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促すことを目的に、開催しました。

日程	企画名称など
05/03 (土)	大野川「筍掘り体験」:河太勝子氏(大野川いい川づくり)
05/26 (土)	岡山村田製作所「ホタル観察&ピオトープ観察会」:村田健氏(村田製作所)
06/02 (土)	由加山「ホタル観察」:岡本勇氏(ホタル研究家)
08/07 (木)	笠岡見崎海岸「アマモ種子採取」:森中憲治氏(神島寺間・見崎里浜づくり)
08/18 (土)	大野川「川あそび」:河太勝子氏(同上)
10/10 (水)	笠岡見崎海岸「アマモ播種ポット制作」:森中憲治氏(同上)
10/27 (土)	岡山地方気象台「温暖化による気象変化と避難行動」:楠田和博氏(気象台)
10/31 (水)	「お魚教室・」(井笠エリア):林宗男氏(ママカリ普及委員会)
11/17 (土)	岡山村田製作所「ピオトープ観察会」:村田健氏(同上)
12/01 (土)	「お魚教室」(備北エリア):林宗男氏(同上)
12/02 (日)	大野川「しめ縄づくり」:河太勝子氏(同上)
12/08 (土)	「持続可能な地域づくり」:井勝久喜氏(吉備国際大学教授)
12/13 (木)	「お魚教室」(岡山東エリア):林宗男氏(同上)
01/23 (水)	笠岡見崎海岸「アマモ苗定植体験」:森中憲治氏(同上)
02/23 (土)	「プラスチックと環境問題」:川本克也氏(岡山大学教授)
03/23 (土)	岡山村田製作所「ピオトープ観察会」:村田健氏(同上)

②概要

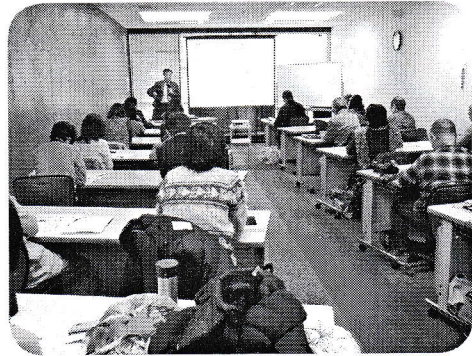
- 1) 大野川「筍掘り体験」では、子どもたちも竹林に入り、鍬を振り下ろして筍を掘りながら、地下茎で伸びる竹の様子を学びました。また、茹でている間に、近くの宇甘川に棲むクマタカなどの野鳥の生態を学びました。
- 2) 2会場で実施したホタル観察会では、産卵から長い間川の中で幼虫としてカワニナを食べながら脱皮を繰り返し、成虫となる50日くらい前に上陸すること、上陸したホタルを踏まないように川岸から少し離れて観察すること等を学びました。
- 3) 季節を変えながら実施した岡山村田製作所でのピオトープ観察会では、数多くの樹木や花の特徴や手入れの方法とともに、手入れをしても失敗して枯れてしまう樹木があること等を学びました。
- 4) 笠岡見崎エリアでのアマモ再生活動では、笠岡湾の干拓によって、カブトガニも棲んでいた目の前の海からアマモもなくなった中で、もう一度きれいな海を取りもどそうと再生活動に取り組んできたこと、アマモが陸上の稲と同じような性質を持っていることなどを学びました。
- 5) 3会場で実施したお魚教室では、サンマやアジを三枚おろしにして調理と試食しました。初めて丸ものの魚をさばいたお母さんや子どもたちが大勢参加しました。
- 6) 岡山気象台より講師を招いた講座では、地球温暖化によって、日本近海での気温の上昇で空気中に含まれる水分量が多くなり大雨となる傾向が高まっていること、大雨が降る予報が発令されたら「自分は大丈夫」と考えず、自分の住むエリアの特性を踏まえてどう行動するかを自分で考えて行



お魚教室・アジの三枚おろし

動することが大切なことを学びました。

- 7) 持続可能な地域づくりの講座では、講師から投げ掛けられる「今の社会で持続不可能なことは?」「持続可能な社会とはどんな社会?」などの疑問を、わたしごと化して考えグループで発表することで、自分の意見をまとめて発言すること、たくさんの様々な異なる意見があることを知る大切さも学びました。
- 8) 新たな環境問題として取り上げられるようになったプラスチックの性質を学ぶ講座では、錆や腐食に強い・着色が自由といったプラスチック類の長所が、廃棄の際には生分解性がない・分別を非常に困難なものにしているなどの短所になること、私たちの生活に深く入り込んでいるプラスチック類の総量を減らすことは容易ではないことなどを学びました。



環境講座・プラスチックと環境問題

(2) 体験プログラム

①企画状況

- 1) 次代を担う子どもの参加する取り組みを大切に考え、自然にふれ親しみ、自然との共生、自然の大切さ、いのちのつながりなどを伝え、自然環境や普段の暮らしを考えるきっかけをつくることを目的に開催しました。

日程	企画名称など (カッコ内はおかやまコープとの共催企画など)
06/09 (土)	日生アマモ種取り体験&アマモ場いきもの観察会
06/16 (土)	大野川ホタル観察会
06/22 (金)	西日本衛材㈱セミナー(備北エリア)
07/25 (水)	牛窓&西脇瀬戸内海のいきものと環境学習(倉敷エリア)
07/26 (木)	西日本衛材㈱工場見学(岡山西エリア)
07/31 (火)	笠岡カプトガニ博物館での里海学習(備北エリア)
10/04 (木)	日生西小学校アマモ播種ポット作成授業
10/13 (土)	日生アマモ種子選別・種まき&エビ食べ比べ
10/13 (土)	日生アマモ種子選別・種まき&エビ食べ比べバス企画 (倉敷エリア)
10/17 (水)	おかやま自然保護センター「タンチョウ見学」(倉敷エリア)
10/20 (土)	大野川「いきもの観察会」
11/04 (日)	旭川「かいぼり調査」
11/26 (月)	西日本衛材㈱工場見学 (倉敷エリア)
01/31 (木)	㈱エフピコ工場見学 (備北エリア)

②概要

- 1) 自然豊かな岡山市北区・御津虎倉の大野公会堂とその周辺の河川敷で開催したホタル観察会、いきもの観察会では、野生生物調査会、岡山淡水魚研究会、岡山理科大学及び附属高校とともに、ホタルの種類や飛翔数を確認したり、水生生物の網を使った捕まえ方を教えてもらい実際に川に入りガサガサを体験しました。それぞれの観察会では、最後に講師から調査結果の報告を受けました。
- 2) 日生では、船上からのアマモの流れ藻の回収と袋詰めや、成熟した種の選別(陸上)や種まき(種まき)とともに、「貝藻くん(カキ殻漁礁)」を引き揚げ解体して中に潜む日生の海に棲むいきものを観察したり、漁船で当日の朝水揚げされたばかりのエビの食べ比べを体験しました。



体験プログラム・大野川いきもの観察会

- 3) 岡山市北区・御津竹枝小学校前の旭川河川敷での「旭川かいぼり」には、一般応募による親子連れと岡山理科大学及び付属高校から500人が集まり、旭川本流河川敷と中洲の間を一時的にせき止め、約300メートルの調査区域を4か所に区切り、いきもの調査と、川底の石を返し、川を耕しゴミ拾いを体験しました。
- 4) 西日本衛材(株)や(株)エフピコの工場見学やセミナーでは、回収された牛乳パックがコアノンロール(リサイクルトイレットペーパー)になる工程や、回収された食品容器トレイが再び食品容器やその他のプラスチック製品の原料となることを学びました。牛乳パックは、30枚でコアノンロール2ロールになること、食品容器は回収できないトレイがたくさんあること等も学びました。

4. 事業共通

(1) 今後の公益事業取り組みへの情報収集

- ①次年度以降の環境講座等の企画に関する情報収集を図ること、県内で環境に関わる企画を主催している団体等との交流を図ること、2021年度に控える財団設立20周年記念行事への継続的な情報収集を図ることを目的に、各種行事等への事務局参加をすすめました。

日程	企画名称など	会場など
06/03 (土)	「自然学習リーダー養成講座」①	県自然保護センター
06/10 (土)	津山エコフェスタ2018	アルネ津山周辺
06/16 (土)	ホテルサミットin真庭	北房文化センター
06/23 (土)	第14回エデュカーレin高梁「食を通じて考える地産地消と私たちの生活～フードマイレージ買い物ゲーム～」	吉備国際大学
07/10 (火)	日生中学校&学芸館高校「聞き書き(漁師・造船主・専門家)調査」	日生漁業協同組合
07/11 (水)	「SDGsで変わるビジネス～未来から今を考える～」	国際交流センター
08/09 (木)	「第6回おかやま環境教育ミーティング」	岡山コンベンション
08/20 (月)	「第1回 SDGs サイエンスカフェ～海の未来を科学の目から考える～」	岡山大学
08/30 (木)	「防災・減災教育勉強会～西日本豪雨発災後のいのちをまもる防災～」	倉敷市男女共同参画センター
09/02 (日)	「自然学習リーダー養成講座」③	県自然保護センター
09/11 (火)	「2030SDG s カードゲーム体験会」	岡山市内
09/29 (土)	岡山NPOセンター 20周年記念式典	岡山市内
10/05 (金)	陸水学会岡山大会公開講演会	岡山大学
10/14 (日)	「自然学習リーダー養成講座」④	県自然保護センター
10/28 (土)	京山EDS協議会「秋の環境てんけん 2018」	京山公民館周辺
11/03 (土)	アマモサミット in 阪南	大阪堺市
11/05 (月)	地域新エネルギー導入推進研修会(岡山県)②	国際交流センター
11/11 (土)	第42回水生昆虫研究会 公開シンポジウム	津黒高原荘
11/18 (日)	「自然学習リーダー養成講座」⑤	県自然保護センター
11/23 (金)	海ごみフォーラム(岡山県)	国際交流センター
01/09 (水)	地域新エネルギー導入推進研修会(岡山県)③	徳島見学(バス)
01/13 (日)	岡山野生調査会総会	操山里山センター
01/14 (月)	「公民館のあり方を考える市民フォーラム」(岡山市)	岡山市勤労福祉センター
01/19 (土)	「COP24 報告会」(CASA)	大阪
01/20 (日)	「自然学習リーダー養成講座」⑥	県自然保護センター
01/30 (水)	地域新エネルギー導入推進研修会(岡山県)④	ピュアリティまぎび
02/10 (日)	「自然学習リーダー養成講座」⑦	県自然保護センター
02/17 (日)	SDG s フォーラム 2019(岡山ESD推進協議会他)	国際交流センター
03/03 (日)	グローイングアップワイルド養成講座	操山里山センター
03/09 (土)	ゴミの未来を見に行こう(公民館企画)	藤田公民館

03/13 (水)	水D0！フォーラム2019「脱プラスチック、そしてその先へ」	東京
03/15 (金)	公民館研修会 (岡山ESD推進協議会)	岡輝公民館

- ②会員登録いただいている個人会員及び団体会員のみならず、企業会員のみならずにも財団としてどんな情報提供が求められているのか、どんな情報提供が可能なのかを研究し、みなさまから必要とされる財団となれるよう引き続き情報収集をすすめます。

5. 法人管理部門

(1) 理事会、評議委員会

- ① 6月開催の評議委員会へ、理事改選を提案し17名の理事を選任しました。
 ② 評議員会後に理事会を開催し、野上祐作を代表理事に選定しました。

(2) 申請

- ① 理事会メンバー交代、代表理事交代等を含めた変更届を提出しました。
 ② 2017年度の公益財団法人事業報告を提出しました。

(3) 会員管理

① 会員数 (2019年03月31日現在：納付済)

会員数	個人	団体	企業等	計
2018年度	101	37	36	174
2017年度	112	47	42	201

② 2018年度入会・退会状況

	個人	団体	企業等	計
入会	8	0	0	8
退会	3	7	2	12

(4) 財政

- ① 事業実施にあたり、他の団体や行政等との連携や協働により事業参加者が増え、また事業費が見込みより減額できたことなどにより、経常収益は予算比101.4%と上回り、経常費用は予算比80.2%と下回りました。2018年度の助成事業申請団体数が減少し助成金が減少したこと等が、前述以外の主な要因です。
 ② 収支予算は、収支相償の原則を踏まえ、当期経常増減が赤字となる予算を組んでいましたが、上記等により、当年度経常増減額は約67万円の黒字となりました。
 ③ 2021年に財団設立20周年を迎えるにあたり「20周年記念事業準備資金」を特定費用準備金として積み立てを行っています。当年度経常増額分の90万円を2018年度分の特定費用準備資金に積み立て、翌年度以降で総額調整をすすめます。

(5) その他

- ① 3月26日に、岡山県による「公益法人立入検査」(3年に一度)がありました。指摘事項等は、ありませんでした。

以上

公益財団法人おかやま環境ネットワーク役員・評議員

2018(平成30)年度

理事 [任期] 平成30(2018)年評議員会終結の時～平成32(2020)年評議員会終結の時

	氏名	略歴等
1	青山 勳	岡山大学名誉教授
2	秋山 秀行	(株)大町代表取締役社長
3	井勝 久喜	吉備国際大学教授
4	高坂 知典	生活協同組合おかやまコープ職員
5	齊藤 達昭	岡山理科大学理学部准教授
6	阪田 祐作	岡山大学名誉教授
7	嶋 一徹	岡山大学大学院環境生命科学研究科教授
8	清水 善朗	弁護士
9	塩飽 敏史	公益財団法人水島地域環境再生財団理事・研究員
10	上甲 啓一	生活協同組合おかやまコープ執行役員
11	田中 丈裕	特定非営利活動法人里海づくり研究会議理事・事務局長
12	千葉 喬三	学校法人中国学園大学・中国短期大学学長
13	野上 祐作	岡山理科大学名誉教授
14	花口 光	岡山の自然を守る会事務局長・会長
15	三村 健	サンコー印刷(株)相談役
16	山口 一裕	岡山理科大学理学部基礎理学科准教授
17	山田 哲弘	岡山県環境保全事業団岡山県自然保護センター職員

以上、理事 17名 (50音順)

代表理事：野上 祐作、業務執行理事：上甲 啓一、高坂 知典

評議員 [任期] 平成29(2017)年評議員会終結の時～平成32(2021)年評議員会終結の時

	氏名	略歴等
1	阿部 孝司	岡山大学生生活協同組合専務理事
2	伊藤 國彦	岡山県立大学名誉教授
3	河本 志津恵	岡山医療生活協同組合常任理事
4	北川 文夫	岡山理科大学教授
5	小橋 賢之	(株)建美装社代表取締役
6	田中 照周	生活協同組合おかやまコープ専務理事
7	日野 進一郎	グローカルネット吉備代表/日野環境デザイン研究所代表
8	檜山 伸吾	児島湖流域エコウェブ理事
9	平田 まき子	加計学園水質管理室
10	福留 正治	岡山環境カウンセラー協会顧問
11	藤田 賢治	(株)フジタ地質代表取締役
12	宮本 紀子	生活協同組合おかやまコープ有識者理事

以上、評議員 12名 (50音順)

監事 [任期] 平成30(2018)年評議員会終結の時～平成32(2020)年評議員会終結の時

	氏名	略歴等
1	岡本 秀雄	生活協同組合おかやまコープ常勤監事
2	横山 順二	岡山手延素麵株式会社代表取締役

以上、監事 2名 (50音順)

顧問 [任期：理事会において定める]

平成30(2018)年5月12日理事会終結の時～平成36(2024)年5月理事会終結の時

	氏名	略歴等
1	河原 長美	岡山大学名誉教授

以上、顧問 1名 (50音順)